

私たちはボランティア精神のもと
「市民後見人」として、地域社会に貢献することを目指します。

会報/市民後見人の会 No. 189

2023年8月27日発行 通巻No.199号

創刊2007年2月26日

発行/特定非営利活動法人 市民後見人の会

〒140-0014 東京都品川区大井 1-15-1 品川成年後見センター分室3階

TEL : 080-3912-3259 (通話専用 月～金曜日の10時～15時の間対応します。)

TEL&FAX : 03-6303-8265

◆後見報告書◆

理事・後見部会 杉山麻里子

私は入会して8年余りたちます。初めて後見を担当した方は受任後4ヶ月余りで亡くなりました。その後後見部会委員となり、周囲の皆さまに助けられながら今に至っています。その私が後見部会で苦勞の多い業務のひとつと感じているのは報告書のチェックです。後見担当をしていない方の為に簡単な説明も加えて書きます。

後見の案件の審判が下りると2か月後に初回報告書、その後は原則4か月ごとに定期報告書、1年に1回報酬付与申立書を正担当が作成します。副担当がその確認を行い更に後見部会委員がチェックし、監督人に提出するという流れになります。ただ多くの場合チェックで誤りが見つかり修正をお願いします。正担当が体調不良であれば副担当が作成しても何ら問題ありません。大事なことは指定された期日までに正確且つ的確に仕上げることです。定期報告書は大雑把に言うと後見等事務報告書・財産目録・収支状況報告書・後見報告書で構成されます。後見等事務報告書では被後見人等の現在の状況を記します。また、10万円以上の臨時の入出金等も記載します。



財産目録では被後見人等の財産全てを記載し、当該期間中の金銭の流れとその根拠が全てわかるようにします。1円たりとも合わないことがあってはなりません。ボランティアだから許されるということはありません。ご本人の大切な財産です。その意識を忘れてはなりません。特に間違いが多いのは利息と現金管理をする金銭出納帳です。

後見報告書では身上保護を中心にご本人の様子を記載します。監督人は報告書の記載内容から適切な支援と財産管理が行われているかを見ています。このように言うと上下関係のようですが、よりよい支援の為の協力体制です。問題が起こってからでは対処が遅いこともあります。負のスパイラルに陥る前に如何に早く手を打てるかが重要です。報告書作成は面倒だと思っている方は多いでしょう。しかし、支援とは面会や役所等の諸手続きだけではありません。適切な報告書を作成できなければ不利益を被るのはご本人です。報告書作成が嫌だなと思った時はご本人の顔を思い浮かべてください。

報告書作成が大変なようにチェック作業も大変なことを理解してもらえると有り難いです。毎月の大変な作業です。正直なところ、チェック作業を手伝ってくれる方を募集したいと思っています。また、副担当は正担当の作成した報告書のチェックを綿密に行って欲しいというのが私の本音です。報告書作成の大変さばかり書いてしまいましたが徐々に慣れていきます。

後見とはその方の人生に深く関わることです。今まで知らなかった世界を知ることができると言ったら言い過ぎでしょうか。私は担当した方それぞれからとても大切なものを頂いたと感じています。最後は報告書チェックのことから話が反れてしまいました。報告書も大切です、けれども最も大切なことはご本人の意思を如何に尊重していくか、尊厳を守るかではないでしょうか。

◆ふくしま祭り 2023◆

「ふくしま祭り 2023」が次のとおり開催され、本会も参加します！

主催：ふくしま祭り実行委員会

後援：品川区、品川区社会福祉協議会

日時：2023年9月16日（土） 10時～15時

場所：品川区立中小企業センター

※2019年9月に本会がブースを出し、成年後見制度、本会の紹介を行いました。（会報142号参。2020年以降コロナで開催されず今回が4年ぶりの開催です。

会員の方で時間のある方は本会のブースを訪れて頂けることを期待しています。

◆2023 年度 7 月度理事会報告◆

理事・事務局 馬庭俊一郎

1. 開催日時 2023 年 7 月 18 日（火）17 時 30 分～19 時 30 分
2. 開催場所 荏原第五地域センター第 3 集会室
3. 出席理事 齊藤裕二、杉谷徹夫、杉山麻里子、高原三平、馬庭俊一郎各理事
4. オブザーバー 小川雅之監事

〈審議事項〉

①38 号、54 号担当者について

各号の正副担当者の交代を決議した。

〈協議事項〉

①監督人・後見人等連絡会について協議した。

②こうけんカフェの今後について協議し以下の結論を得た。

- ・活動の継続を断念し、品川区に登録の取下げ申請をする。

③設立 15 周年記念出版について

第 4 回 15 周年記念誌編集委員会、各班の現状報告に基づき協議した。

④本会のスマホデザリングについて協議し以下の結論を得た。

- ・Zoom 等オンライン会議推進に向けてスマホデザリングの利用を取入れる。

〈報告・連絡事項〉

①業務指導委員会の委員の後任人事の進捗状況について報告があった。（高原）

②寄付受入について以下の報告があった。（高原）

- ・和久井良一（会員）1 万円、高原三平（会員）5 千円。

③東京都への NPO 法人活動報告について、都より受領したとの報告があった。（高原）

④当年度第 1 回情報交換会について報告があった。（齊藤）

⑤品川区成年後見制度地域連携ネットワーク協議会について報告があった。（高原）

⑥最近 3 年間の入会者懇談会の開催について、参加希望者が少なく今回は中止となった。（馬庭）

⑦謝金の振込について報告があった。（高原）

⑧社協より本会へ市民後見人養成講座の講師派遣要請について（高原）

後見部会で人選中との報告があった。

- ・15 周年記念誌リーダー（班長）会 8 月 17 日

毎日新聞の社説（2023. 8. 21）に「増える単身高齢者 社会で孤立防ぐ仕組みを」という記事がありました。ごく一部分を抜粋・引用します。「高齢期に備えるには元気な内に自らの意思を明確に示しておくことが大切だ。エンディングノートを準備したり終末期にうけたい医療や介護を関係者と話し合ったりしておくことで安心感が増す。判断能力が低下すれば、自分の思いを伝えにくくなる。日常の金銭管理が難しい場合は、成年後見人を見つけるなどの手だてを考えておく必要がある。」

本会の重要性を感じつつ、後見制度が広がらない現状にモヤモヤ感を感じます。（編集 金城 清）